

第37回地方公務員共済資金運用委員会議事要旨

1. 日 時：令和5年6月27日（火） 10：00～11：00
2. 場 所：地方公務員共済組合連合会 特別会議室
3. 出席委員：
 - ・若杉座長 ・川北委員 ・喜多委員 ・佐藤委員 ・芹田委員
 - ・竹原委員 ・徳島委員 ・野村委員 ・森本委員
4. 議 事
 - （1）令和4年度各積立金の管理及び運用に関する業務概況書（地共済）
 - （2）令和4年度各積立金のリスク管理の状況（地共済）
 - （3）退職等年金給付積立金の基本ポートフォリオの検証について

〈議事の概要〉

- ・事務局から上記議題について資料の説明が行われた。
- ・その後、意見交換及び質疑応答が行われた。

- （1）令和4年度各積立金の管理及び運用に関する業務概況書（地共済）
 - 外国債券の超過収益率について、厚生年金保険給付では大きな超過収益になっていて、経過的長期給付の方はそれほど大きな値ではないことについて、説明してもらいたい。
 - 運用利回りについて、地共済全体では修正総合収益率は運用手数料控除後、時間加重収益率は運用手数料控除前となっているが、地共連は両方とも控除前としていることの背景を説明してもらいたい。
- （2）令和4年度各積立金のリスク管理の状況（地共済）
 - オルタナティブ投資で、不動産のオフィスと商業施設のセクターについて、空きが目立っていて収益の悪化が懸念されるが、こうしたことに注意を払って、ファンドの運用者から情報を得てもらいたい。

- E S G投資について社会的な意義は誰もが認める一方で、発行体にとって有利であっても、投資する側からするとどうなのか、という側面がある。また、今後、様々な形でE S G投資の動きが国全体で高まっていく中で、巨大なアセットオーナーであるところの公的年金積立金の運用について問われた際に、各組合でそれぞれに判断していくものなのか。
 - E S G債については、プレミアムがついている分利回りが低下するならば、地方においてプレミアムに相当する分のE S G的な効果がないと、単に運用者側に不利なだけで終わってしまうので、地共済全体として考えた方が良いと思う。
- (3) 退職等年金給付積立金の基本ポートフォリオの検証について
- 今後は金利上昇リスクが高まることが考えられる。超長期債の保有割合が高いことなどを踏まえ、今後どのような期間構成別の保有にしていくなかということを議論してはどうか。
 - 基準利率について、年金財政上の不足金が発生する可能性は極めて低くなるようになっているが、どういう場合に不足が発生するような可能性を見ているのか、教えてもらいたい。

以上